

コロナにも 災害にも負けない

災害ボランティア結集

記録的な大雨で土砂災害が近年相次ぐ中、伴地区で初めての災害ボランティア活動が九月、展開されました。

お盆の長雨の影響で、伴中央の裏山が崩れ、住宅と周辺に大量の土砂が押し寄せました。広島市の復旧工事に合わせ、伴学区の町内会連合会と社協が、土砂撤去作業の協力を呼び掛けました。



土砂を撤去する学生ボランティア

安佐南区社協のボランティアセンターが窓口になり、広島大学の学生ボランティアを含めて五日間、延べ二百人が作業。一帯の泥や土石を取り除きました。地元の包括支援センター、高齢者福祉事業所、体協、ボーイスカウト、ソフトボールチームなど各種団体が協力。地域の結束力や災害ボランティアの運営など地域で学ぶ点が多い活動になりました。

社協、町内会連合会など五団体で六月に結成。予約の受入れ先として、地元の

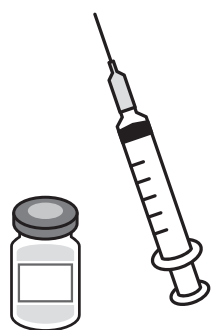
日比野病院とマツモト外科整形外科の協力も得ました。接種の希望日などを記入する予約状況確認シートを学区内に配りました。老人いこいの家にもシートを用意しています。

予約受付から医療機関への予約、予約結果の依頼者への連絡までスタッフが代行します。六月二十九日に一人目の予約依頼を受け、十月二十日現在、六十五人の予約を代行しました。六

十五歳以上は七人で、十二歳以上の各年齢層に広がっています。接種支援体制は今後も継続していきます。

接種支援体制は今後も継続していきます。

接種支援体制は今後も継続していきます。



ワクチン接種 予約を代行

伴学区コロナワクチン接種支援実行委員会が、老人いこいの家に事務局を置き、接種を希望し、予約を取れなくて困っている人などの予約代行を行っています。

書面審議で3議案を承認 （令和3年度評議員会）

伴社協の令和3年度評議員会は、コロナ対策のため六月、前年同様に書面審議し一般会計予算案など三議案を原案通りに承認しました。

予算総額314万0501円。前年度実績より66万1518円減としました。前年度は広島市からコロナ対策応援金として136万7100円の雑収入を計上し、総額が膨らみました。収入面では、町民（三千世帯）が町内会経由で納める会費（一世帯二百円）を60万円見込んでいます。

支出面では、グラウンドゴルフ大会など、前年度中止した事業費などを計上。高齢者伴安心ネット推進費として認知症カフェ設立準備費1万円を新規に計上しました。

みんなの善意銀行の予算総額は、前年度実績より17万6176円減の376万1465円。収入面では賛助会員年会費85万円（個人25万円、法人60万円）、支出面は敬老会補助金40万円、団体育成費23万3000円などを計上しています。

伝説の舞い 地域挙げ若い力を応援 三城田神楽団 創作神楽「火山」完成

火山の神武天皇伝説を基にした三城田神楽団による創作神楽「火山」が、地域の全面支援で完成しました。広島市の地域活動支援の助成金も受けて新調した華麗な衣装や舞台を用いて十一月十四日、沼田公園で初上演しました。

新しい舞台は長さ七メートル、奥行き五メートル、特設の花道付き。この事業を主導した住民団体「アートな伴クラブ」や町内会連合会、社協など地域のみなさんが、火山を望む公園に前日から組み立てました。

火山には神武天皇が日向から大和への東征で火山に立ち寄り、援軍を呼ぶ「のろし」を頂上で上げた伝説があります。建国の合戦も盛り込むスケール大きな創作神楽。熱気あふれる若い団員によるダイナミックな舞いが魅力です。



新調した衣装で見事な舞いをみせる団員たち

火山の緑美しく 出会いの水の澄むほとり： 伴小学校にある古里の風景を象徴する「火山」。「ひやま」の読み方も分からない子どもや大人たちもいます。

これを懸念した地域住民の働き掛けを受け、四年前に復活した三城田神楽団の団員十四人が、古里の神楽創作に挑戦。一年以上の地域と一体の取り組みが結実しました。

若者中心の神楽団は岡崎神社を拠点に活動。老人ホームを慰問し、神楽を懐かしむお年寄りが多いという。

奥田海斗団長は「古里を題材にした神楽ができて私たちもうれしい。この神楽が地域の宝物の一つになれば。大好きな神楽を地域のためにも役立たせた」と語ります。



毎朝、グリーンヒル大原の住宅団地でボランティア見守り隊員が、登校する児童を見守る。平成二十三年春、老人会から有志が引き継いだ。隊員二十一人と保護者が横断歩道三カ所に交代で立つ。みんなの善意銀行から長靴と手袋も寄贈。「雨の日、雪の日に助かっています」。あいさつと安全・安心と地域の連帯をモットーに保護者も一緒に活動する。

